

令和2年度 特色ある道徳教育推進校（心の教育推進キャンペーン実施校）
東金市立城西幼稚園

研究主題

道徳性の芽生え

心の動きを見つめて・・・ ～人との関わりを通して～

＜研究内容＞

子供たちが人との関わりを通して、様々な思いや考え方があることを知り、互いに思いを伝え合ったり受け入れたりするようになるために、教師が一人一人のありのままの姿を受け止め、心の動きを捉え、個々に合わせた援助を探る。

事例①「友達の顔を見てみたら…」

3年保育3歳児 男児A

自分の気持ちだけで、周りを気にせずに動いているA。自己の思いが通らないと、言葉よりも先に手が出てしまう姿が見られた。Aは、ブロックを積み上げては壊すことを楽しんでおり、Bも隣りでブロックを積んで遊んでいた。
・(子供の様子について) ☆(教師の援助について)

友達や教師等とのやりとり	予想される心の動き
B (園児)「先生ー！A君につくったもの壊された！」 A にこにこ笑いながら壊れたものを見ている。 T (教師)「A君、そうなの？どうして壊しちゃったの？」 A (園児)「…。」表情が強張り、教師をじっと見ている。 T 「どう？A君？」 A 「壊した…。」 T 「B君、つくったもの壊されちゃってどんな気持ちかな？お顔見てごらん」 Bの顔を見て「“やだな顔”。」 T 「そうだよね、先生もつくったものを壊されたら嫌だし悲しいな。B君はどう？」 B 「悲しかった…。」 T 「そうだね。A君、B君にどうしたらいいかな？」 A 「B君、ごめんね…。」 B 「いいよ。」	A:壊すの楽しいな～♪ A:あれ？壊しちゃダメなのかな…。 A:だって楽しかったから…。 A:B君、笑ってないかも…。 A:あつB君は壊れちゃうと悲しいんだ。壊しちゃいけなかったんだ。



- ・その後も、同様な場面が何度も見られるが、友達の顔を見たり言葉を聞いたりすると、Aなりにハッとした表情で教師の顔を見るようになった。
- ☆教師は、Aが友達の思いを少しでも感じられるよう、Bの表情や思いを言葉にして伝えるようにした。つくったものを壊すことはAにとっては“楽しい”ことだが、Bにとっては“嫌なこと”であり、思いの違いを感じることができた。また、教師の言葉によって、相手が悲しい思いをしていることに気付くことができた。
- ☆Aの行動の裏にある言葉にできない思いを受け止めていく中で、信頼関係を築いてきた。子供の思いや考えを教師が耳を傾けてしっかりと聴き、受け止めていくことで、自分の思いが伝わる嬉しさを感じ、相手にも思いがあることに気付くようになっていく。そのためには、教師と一緒に思いを感じ合える経験を積み重ねていくことが大切であると感じた。

事例②「一緒ならいいよ」

3年保育4歳児 男児C・D

Cは進級当初より、自分の思いを主張し押し通そうとする姿が見られ、今まではC自身が友達に譲ってもらう側であった。鬼ごっこの鬼決めをすることになったが、同時に鬼決めをやりたいと言い出したCとD。互いに相手の声に耳を傾ける様子がなく、自分の思いのみ主張していた。すると、Cが困った様子で教師の顔を見てきた。

*鬼決め…鬼決め、鬼決め、鬼じゃないよ♪と言葉に合わせて靴を指で触っていく方法

友達や教師等とのやりとり	予想される心の動き
T (教師)「C君もD君も鬼決めをやりたいのね。 じゃあ、どうしたらいいと思う？」 C (園児)「う～ん。じゃんけん？」 (仕方がない言い方で、険しい表情で教師の顔	C:俺だってやりたいのに！じゃんけんならいい??先生助けてよ！

を確かめる。)

- C 「D君、じゃんけんでいい？」
- D (園児)「やだ！」(下を向いて顔を見ようとしなない)
- C 「じゃあ、順番で俺の次にD君がやれば？」
(Dの顔を見て、問いかける)
- D 「やだ！俺がやるの！」(下を向いたままである)

- C 「……………」
(困った表情になり黙り込む)
- C 「じゃあ、一緒にこうやって手を持ってやればいいんじゃない！？」
(ぱっと表情が明るくなり、誘いかけるように声をかける)
- D 「うん！一緒ならいいよ！！」
(Cの顔を見て、嬉しそうに答える)


- C:D君が譲ってくれないかな…
- D:負けたらできないじゃん！
- C:やっぱりやりたいなあ〜
でも、D君もやりたいんだよね…
- D:先にやりたいし、全部やりたいもん！
- C:じゃんけんも順番も嫌なのか…
どうしたらいいのだろう。
- C:あっ！先生がやっていたみたい
に一緒にやれば
いいのか！！



- ・自分の思いが通らないと怒ったり、遊びから抜けたりする姿もまだ見られるCであるが、気の合う友達の中では、相手の話に耳を傾けたり、思いに気付いたりするようになった。
- ☆いつもであったら、喧嘩をして終わっていた場面であったが、今までの経験(友達が譲ってくれたこと・教師と一緒にやってくれたこと)を思い出し、互いが満足できるやり方を見つめられた。教師が傍で見守り、気持ちを受け止めてくれる安心感があったため、互いに気持ちを出し合い、相手の思いにも気付くことができたのではないかと思う。
- ☆年齢が小さいほど、自分で相手の表情を見て感じる気持ちや、自分の発言が相手に与える影響等を感じる事が難しい。教師が様々な葛藤場面を逃さず捉え、気持ちを受け止めたり、思いを言葉にしたりすることで、安心して繰り返し経験できるようにしていくことが大切である。

事例③「みんなで練習しよう？」 3年保育5歳児 女児E 男児F

自分の思いや考えは言葉にして伝えることができるE。運動会の日が近づき、雨天のため戸外で練習ができないので、遊戯の練習をどうするかで話し合いをしていた。『みんなで頑張りたい』と思う子供たちに対して、Fだけが最後まで『やりたくない』と頑なに練習することを拒んでいた。話し合いが進むにつれて、Fに対して責めるような言葉が多く聞こえてきた。


友達や教師等とのやりとり	予想される心の動き
<p>園児数名「もっと練習して、お家の人にかっこいいところ見せようよ！」 「なんで練習したくないの!？」 「やりたくないなら、やらなくていいよ！」 クラス全体が険悪な雰囲気</p> <p>T (教師)「どうして練習したくないのかな？」 F (園児)「…もう、たくさんやったから。」 T 「そっか。今までいっぱい練習してきたもんね。」 E (園児)「でも、もっと練習したらもっと上手になってかっこよくなるよ！」 F 「……………」(黙って下を向いている) T 「お友達はもっと練習して、かっこいい遊戯を見せたいんだって。」</p> <p>園児数名「やろうよ!」「頑張ろうよ!」 T 「みんな、Fと一緒にやりたいんだって。」 E 「Fもゆき組の仲間だもん！Fの力が必要なんだよ！みんなで頑張ろうよ！Fならできるよ！」 「どうかな？」</p> <p>F (少し考え)「じゃあ…僕もやる。」</p>	<p></p> <p>F:みんななんで練習したいんだろう？ E:どうしてやってくれないの。(怒) F:そんなに言わなくてもいいじゃん。</p> <p>E:強く言いすぎちゃったかな… でも、みんなで練習したいし。 E:いつも先生、気持ちを聞いてくれたよね。私もFの気持ち聞こう！ F:仲間って言われて嬉しかったな…</p>

- ・Eは、自分の思いだけでなく友達への思いにも気付き、自ら声をかけたり、話を聞いたりする姿も見られるようになってきた。Fは、その後、一度も練習をやりたくないということではなく、意欲的に参加するようになった。
- ☆Fが練習しようと思うようになったのは、Eの言葉によって自分を必要としていることに気付いたからではないかと思う。最初は、Eも友達と共にFを責めていたが、Fの表情や教師の言葉により、強く言い過ぎたことに自分で気付いたようだった。Eは、教師が今までの話し合いの

中で、自分達に「どうかな？」と聞いてくれた経験から、最後は自分の思いを伝えながらも、Fの気持ちを聞き、その上で思いを尊重しようとしながら答えを待つ姿へとつながったと思う。☆子供たちの話し合いを、思いを伝え合う大事な場と捉え、何を感じて欲しいかを教師自身が明確にすることが大切である。言葉を補ったり、自信をもって思いを伝えられるように支えたりすることで、様々な思いを感じ、相手の思いも受け入れられるようになると思う。

事例④「もう、やらないよ！」 3年保育5歳児 男児G

自己の思いが強く、友達の思いを受け入れることが難しいG。ケイドロを毎日クラスの友達と楽しんでいるが、自分が捕まりそうになると、ルールを勝手に変えてしまい、遊びを中断させていた。教師も仲間に入り、その都度ルールの確認や、話し合いをしてきた。友達がGを受け入れ、再度遊びを楽しむが、また同じことを繰り返していたため、とうとう友達が怒り出した。

友達や教師等とのやりとり	予想される心の動き
<p>園児数名「また、G君が勝手にルール変えた！」 「全然話聞いてくれないんだから！」 「また、(ケイドロが)とまっちゃうじゃん！」 G(園児)「だって、ちょっと水筒飲みたいんだもん！」 園児数名「いつもそうやって逃げるんだから！」 「G君が居ると、(ケイドロ)続かないから、もう一緒に遊ばないよ！」 G「いいもん！もうやらないから！！」 その場を離れ、一人遊具で遊び始めるが、ケイドロの様子が気になっている。しばらくすると、自分から再度、ケイドロをしているところに近づいてきた。 G「ごめんねするから、仲間に入れて。」 園児数名「だめ。」「約束守れないから！」 子供たちは、遊びの続きに戻ってしまう。 G 下を向いて困ったような、怒ったような顔。 T(教師)「みんながこんなに言うなんて、本当に怒ってるんだよ。今までは、みんなが我慢してくれてたと先生は思うけど、G君はどう思う？」 G「・・・(黙ってみんなを見ている)。」「 走って友達を追いかけると、何時になく必死な表情で「もうやらないよ！だから、一緒に入れてよ！」</p>	<p>予想される心の動き</p>  <p>G:だって、捕まりたくないんだもん！</p> <p>G:そんなに怒らなくてもいいのに！怒るなら、遊ばないよ。一人で遊ぶからいいもん。 G:やっぱり、やりたいな…。そろそろ入れてくれるかな？</p> <p>G:いつもだったら、入れてくれるのに…。どうして許してくれないの！</p> <p>G:みんな我慢してくれてたのか。みんなと一緒に遊びたいから、僕の考えだけではいけないかも。</p>

- ・Gは、懸命に約束を守りながら遊ぶ姿が見られた。周囲もそのGの姿を認め、再度受け入れてくれたため、G自身が自信をもって行動できるようになってきた。また、異年齢の友達にも優しく関わられるようになってきた。
- ☆今までは、友達が許してくれていたため、自己の思いだけで遊びを楽しんでいたGであった。教師は、周囲の友達の思いを感じてもらいたいと思い、あえてあまり口を出さずに子供同士のやりとりを見守った。教師ではなく、友達に言われたからこそ響く言葉もあり、初めて友達の本当の思いを感じた。自分の思いと友達の思いとの違いに、葛藤した表情が見られたが、「一緒に遊びたい！」という思いの方が強かったため、自己中心的な遊び方(考え方)を見直すことができた。
- ☆教師が、子供自身の行動を振り返る機会をつくることによって、相手の気持ちを考えたり、自分の言動を省みたりするようになり、自分の思いに自ら折り合いをつけ、うまくいかない場面を乗り越えようとする心が育っていく。また、教師が『このように心が動いて欲しい』と願い「子供たちの育っていく心のどこに視点をおくか」を明確にして援助していくことが大切であると思う。

主な成果と課題

- 教師との信頼関係を築き、安心して自己表現ができる相手になることで、少しずつ友達や様々な人との関わりももてるようになってきた。
- 安心して自己表現したり自己の思いに自信をもったりすることで、相手の思いを受け入れる気持ちのゆとりが芽生え、思いに気付いたり譲ったりできる優しさが育ってきた。
- 子供自身が自分の心で感じ、考え、気付く姿を教師がさりげなく支えていくことで、自分の思いに折り合いをつける力や相手のよさに気付く心が育ってきた。
- 子供たちは、日々遊びや生活の中で人との関わりを繰り返し、沢山の感情を感じている。その言葉にはできない思いや目には見えない思いを教師が汲み取り、一緒に感じたり考えたりしながら、子供たちの心が動く場面を適切に捉えていくことが今後も課題である。

道徳性の芽生えを培う視点

東金市立城西幼稚園

<div style="border: 1px solid green; padding: 2px; display: inline-block;">視点</div>	3歳児 「やってみたい」「やったらできた」 満足感を大切に	4歳児 相手の気持ちに触れる体験を たっぷりと	5歳児 みんなと一緒に生活することの楽しさを基に 自立に向けて応援を
《自立》 自信 判断 基本的生活習慣 挨拶 など	<ul style="list-style-type: none"> ○様々なことを自分なりに行き、できた喜びを十分に味わう。 ○友達や教師の働きかけから、してよいことと悪いことが分かる。 ○教師に見守られたり、手伝ってもらったりしながら、身の回りのできることは、自分でしようとする。 ○一日の生活の流れを感じ取り、自分から行動しようとする。 ○簡単な挨拶や、返事をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分なりにやり遂げた満足感や、身近な人に認められる喜びを通して、自信をもつ。 ○教師や友達の言動を受け止めて行動しようとする。 ○困ったことやしてほしいことを自分から教師に伝える。 ○してよいことと悪いことが分かり、状況を感じて自分なりに行動しようとする。 ○遊びや生活にあった身支度をしようとする。 ○自ら気持ちよく挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○繰り返し挑戦して達成したり、様々な人に認められたりすることを通して、自信をもつ。 ○周囲の状況や友達の思いを感じ取って行動しようとする。 ○クラスの一員として、してよいことと悪いことがあることが分かり、考えて行動する ○遊びや生活にあった身支度を考え、進んで行く。 ○場面に応じた挨拶をする。
《関わり》 親しみ 自己発揮 共感 調整 など	<ul style="list-style-type: none"> ○教師との触れ合いを通して、安心して生活する。 ○教師や友達と一緒に遊ぶことを喜ぶ。 ○安心感をもって、のびのびと自分を表して行動する。 ○自分の思いを表情や言動で表し、相手にも思いがあることを感じる。…事例① ○身近な人と触れ合うことを喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○思いや考えを出しながら遊ぶ楽しさを味わう ○何かをしてあげたり、してもらったりすることを喜ぶ。 ○友達とのつながりを感じながら、みんなで行う活動の楽しさを味わう。 ○うまくいかないことや葛藤場面を通して、相手にも思いや考えがあることに気付く。…事例② ○異年齢の友達や家族以外の大人などに親しみをもち、一緒に活動する楽しさを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の考えを聞いたり、自分の考えを話したりして、言葉で伝わる嬉しさを感じ、思いを受け入れようとする。…事例③ ○自分の力を発揮したり、友達のよさを認めたりしながら遊ぶ。 ○友達と一緒に目的に向かって活動を進め、気持ちを合わせる心地よさや、やり遂げた満足感を味わう。 ○友達と考えが違ったときに折り合いをつけながら、うまくいかない場面を乗り越えようとする。…事例④ ○異年齢の友達や地域の方などと関わり、親しみや思いやりをもつ。
《規範》 きまり ルール マナー など	<ul style="list-style-type: none"> ○生活や遊びの中には、安全のためなどに必要なきまりがあることを知り、それを守ろうとする。 ○みんなでする物があることが分かり、一緒に使おうとする。 ○遊具や用具の貸し借り、交代や順番待ちの際に必要な言葉を使う。 ○教師の手伝いをするを喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と楽しく生活する中で、きまりの大切さに気付き、守ろうとする。 ○安全のために必要なきまりや行動の仕方が分かり、自分から行おうとする。 ○簡単なルールを守って遊ぶ楽しさを味わう。 ○生活に必要なことに気付き、手伝いや当番などに興味をもって取り組む。 ○公共の場所での過ごし方が分かり、守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と一緒に遊びを進めていく中で、自分たちで遊び方やきまりを作り出し、守って遊ぶ。 ○安全のために必要なきまりが分かり、遊びや生活の中で、危険なことを自分で判断する。 ○生活に必要なことを友達と一緒に進め、自分の役割を行うことに喜びを感じる。 ○公共の場所での過ごし方を理解し、意識して行動する。
教師の援助	<ul style="list-style-type: none"> ○食事の仕方や排泄、手洗い・うがいなどの生活習慣が身に付くようにする。 ○扱いやすい用具や置き場所等を整えることで、自分で身の回りのことをしようとする気持ちをもち、できた喜びを感じられるようにする。 ○一人一人のありのままの姿を受け止め、幼児が教師に安心感を持てるようにする。 ○できるようになったことや表現したこと、考えたことなどを、他の子と比べるのではなく、その子の成長として受け止め、認めていく。 ○一人一人の思いを受け止めながら、徐々に相手の思いも伝え、自分とは違う思いがあることを感じられるようにする。 ○「貸して」などの言葉や交代、順番等のきまりなどを伝え、教師と一緒に活動しながら、徐々に自分でできるようにしていく。 ○やってよいことと悪いことがあることをその都度伝え、その理由も知らせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分で行おうとしている気持ちを尊重し、教師が先に指示したりせずに温かく見守り、できたことを共に喜ぶ。 ○教師が仲立ちとなり、友達の存在や動きに関心がもてるようにし、遊びの楽しさを知らせていく。 ○トラブルの場面では、双方が相手の思いに気付けるよう仲介していく。一人一人の気持ちを受け止め、心を落ち着かせたり、どうしたらよいかを一緒に考えたりしていく。 ○よいことや悪いことなど、気付いたことや考えたことを十分に受け止め、そこから必要なこと、大切なことを一緒に考えていくようにする。 ○生活に必要なことを一緒にいたり、簡単な手伝いをさせたりし、そのことで気持ちよく生活できることを伝え、感じた思いに共感する。 ○ルールがある遊びを一緒にしながら、楽しさや負ける悔しさなどをともに味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児の発言を肯定的に受け止め、安心して何でも言い合えるクラスの雰囲気をつくり、様々な出来事をクラスやグループで話し合っていく。 ○一人一人の頑張りや取り組みを伝え合う機会を通して、互いに認め合う雰囲気をつくる。 ○自分で考えて判断したり、発言したり行動したりする姿を認めていく。 ○様々な人と関わる中で、その場に合った行動や人への接し方を経験できるようにしていく。 ○遊びや友達関係がうまくいかない場面では、様々な出来事や感情に向き合いながら乗り越えていけるよう、一緒に考え支えていく。 ○集団生活でのきまりや手伝い、当番活動などを自分たちで考えて実行する機会をつくり、取り組む姿を認めて自信がもてるようにしていく。 ○公共の場でのルールやマナー、交通ルールなど実際の場面を通して知らせ、理解して行動できるようにしていく。